

A-2. 葉っぱ持つて食べるのじょうずだね～蚕との出会い～

岡崎市島坂保育園（愛知県岡崎市） [3歳児]

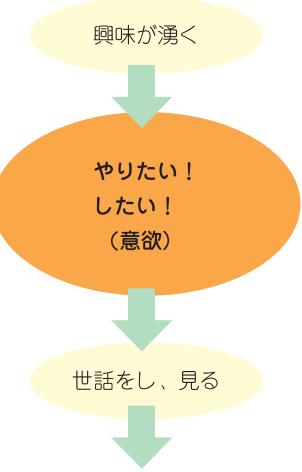
6月28日 蚕との出会い→観察 3歳児

| 子どもの思いや考えの捉え | 子どもの活動 | 保育者のかかわり |
|--|--|---|
| <p>初めて蚕と出会う子 これなんだろう？</p>  <p>あっ、食べたよ！ すごいよ！ (感動)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 保育者が葉をあげようとすると、真っ先に I、 S、 H、 が近寄ってくる。 (何だろうと興味を示す) I 「それ、蚕？触ってもいい？」と尋ねてくる。（昨年、目についている子） 近づいて来た子に、 I 「やけどしちゃうから触っちゃあいけないんだよねー」と言い S、 H に確認する。 S 「蚕のうんち黒いねー」 H は作りかけのブロックを持ったまま「Hのうんちは茶色いよ」 I 「Iのうんちも茶色いよ」と答える。 O は声は出さないが近くで葉を食べる様子をじーと見ている。「あっ！食べたよ！」動かなかつた蚕が葉に付いて食べた様子を周りの友達に知らせる。 I 「すごいねー。いっぱい食べるじゃん」 S 「ほんとだ・すごいよ」「これも食べたよ！」 保育者の話に耳を傾け、動きを止めて話を聞こうとする姿がみられた。 | <ul style="list-style-type: none"> 桑の葉を蚕の上に乗せ、子どもたちの見やすい机の上に箱を置いて世話をしていく。 「まだ赤ちゃんだからみんなの手でやけどしちゃうといけないから、今日は見るだけにしておこうか？」と答える。 (よく見るようにしたい) 「ごはんをいっぱい食べると、うんちもいっぱい出るんだよね」と声をかける。 保育者も一緒に蚕を見ながら他の子が分かり易い様に指を指して知らせていく。 (思ったことをすぐに言葉で表現できる子、口数は少ないがしっかりと見ている子、色々な姿がある) 「蚕はね、桑の葉っぱしか食べないんだよ。レタスやきゅうりは食べられないんだよ」 |

考察

蚕を見たことのある子は保育者の行動を見ていてすぐに側に来る。今までであればすぐに手を出し触っていたが、Iの「触ってもいい？」と尋ねてくる姿があったり、保育者の言葉を聞いて理解し「やけどしちゃうからダメなんだよね」と自分自身の行動をコントロールしたりすることができる様になってきたことは大きな成長を感じた。見たもの、感じたことを言葉で表現したり、じっくり見て自分の中で楽しんだり、色々な子どもの姿がある。蚕は年齢の低い子でも觀察しやすく、変化が目に見えて分かるので、引き続き子どもたちと觀察を進めていきたい。

7月2日 保育者と一緒に蚕の世話をしてみよう

| | | |
|--|---|---|
| <p>興味が湧く</p>  | <ul style="list-style-type: none"> おやつの後、6人の子がテラスで蚕を見ている。I 「先生、もう葉っぱ食べちゃったからあげてもいい？」と聞いてくる。T 「Tもやりたい！」「Sもー」 「おれもやりたい！」 Tはやりたいと言ったものの蚕には抵抗があったのか葉を落とすように入れて「Tもあげられたよ」と満足そうに伝える。 R 「穴が開いてくる！」葉を食べている様子を伝える。 I 「ほんとだ、穴が開くじゃん」 蚕に興味はあるが少し抵抗のあるYは箱の中をのぞき込み「うあー！」と声を出し、箱の蓋を閉めてしまう。(見たいのような…不安がある) | <ul style="list-style-type: none"> 興味が広がってきたのか、蚕の箱をのぞき込む時間が長くなってきたように感じる。 「重ねて置くより、広げてあげた方が食べやすいかな」と声をかける。 「蚕の上に置いてあげるとどうやって食べるかな?」と問い合わせてみる。 「蓋を閉めちゃうと蚕が苦しくなるから開けておいてね」と伝える。 |
|--|---|---|



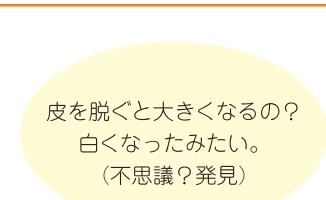
- ・S 「はーい」と答え大切そうに箱を持ってくる。
- ・I 「ここに置けばいいじゃん」近くに置くことを提案する。
- ・蚕が食べた葉を見て、「もう食べちゃったからもう1回あげていい?」と聞く。

・降園前の時間になったが見ることに夢中なので、「部屋に持ってくる」と声をかける。(蚕がより身近なものとなってきて、自分たちの側にいつも置いておきたい気持ちを感じる)

考察

蚕の観察を進め、子どもたちの興味も深まってきている。保育者が葉をあげているのを見て、「やりたい！」気持ちが湧き、主体的に世話をする事を喜ぶ様になる。自分のあげた葉を蚕に食べてもらいたいことから、真剣に観察〈見る〉し、そこで、また発見があり、さらによく見るようになっている。

7月11日



なんかびりびりって音がする!

触れてみて感じる

生きてるからだよ

- ・登園の支度が終わり、4人の子が蚕の糞の始末を手伝う。摘んで移動させる。
- ・「Kちゃんこれ、触ったことないもん」(触れない)
- ・葉の中にIは脱皮した皮を見つける。
- ・「これ皮を脱いだの？」
- ・触れないKが「皮を脱ぐと大きくなるの？白くなったみたい」
- ・隣で遊んでいたH「きゅうくつだから？」と聞いてくる。
- ・I「うんちも大きくなったね」「穴がいっぱい開いてきたよ」
- ・A「蚕がいっぱい喜んでるね。蚕ちゃんおいしい？」葉で強く蚕を触る。
- ・Y「そーっとやらんとだめだよ」
- ・ずーと触れなかったKみんなの様子を見て「ちょっと触れたー！柔らかかった」「なんかびりびりって音がするね」(やっと触ることができ、感動の気持ちが言葉、表情に出る)
- ・S「葉っぱ持って食べるの上手だね」「なんか足がくっつくもん」
- ・I「足がいっぱいいくっつくからじゃあない」
- ・K「生きてるからだよねー」

- ・蚕の糞の始末をするため新聞紙を敷き、蚕を新しい紙の上に移動させることを子どもたちの見やすい場で行う。
- ・「Kちゃんちょっと触ってみる？」(触らせたい)
- ・よく世話をしているIは発見が多い。
- ・「そうだよ。皮を脱ぐと大きくなるんだよ」
- ・「きゅうくつかもしれないね」(聞こえた事に反応し言葉に出し聞いてくる)
- ・強く掴もうとしたAにYが言葉を掛けてくれたので様子を見る。
- ・触った感じを聞いてみる。
- ・Sの様子を見て「何で下向きにしてもおちないのかな？」保育者がやってみせる。
- ・「そうか、だから上手く葉っぱを持って食べるんだね」

考察

毎日蚕の世話を保育者と子どもが一緒にしていくことで、子どもたちにも興味が広がっていった。まったく興味のなかった子も友達の姿を見て、箱の中の蚕のぞくようになった。じっくり見る経験をすると自分の手に触れて、「見てみたい！」という気持ちに繋がっていくことをKの姿から感じることができた。見たものを自分の感じたままに表現できることは、子どもの獲得している言語にも繋がってくるのではないかと思う。小さな変化にも気付いている子どもに保育者も気付かされた。場を一緒にすることだけが参加することでなく、別のことをしていても蚕の様子を気にするHの姿など、子どもたちそれぞれの興味の持ち方があると感じた。

ポイント

蚕に出会った当初の「何だろう?」「触ってみたい」という思いは、桑の葉の上で葉を食べている様子や保育者の言葉から「まだ赤ちゃんだ。大事にしよう」「いっぱい食べて大きくなって欲しい」と変わり、行動をコントロールしたり糞に気付いたりすることにつながっています。保育者がそうした興味関心を大事にしながら子どもたちの前で蚕の世話をすることで、世話をしたり蚕と餌の双方に関心をもったりして観察するようになっています。脱皮や糞の大きさから成長を感じ、優しく「触れる」ことで「柔らかい」、葉から落ちるのは「足がいっぱいいくっつくから」「生きているから」と、さらに蚕の特徴を感じ取ることができました。